



田植え体験の様子

## 田んぼを訪ねて300\*

5月26、27日に、久々利の田んぼで（有）楽農楽人の親子米づくり体験がありました。約50家族のうち10家族がふるさと納税の制度を利用して参加。最も遠くから訪れたのは東京都の小野寺さん一家。「田植えは都合に合わせて参加を決めることができたので気軽に申し込みました」と父。始めは「泥、こわーい」とためらっていた子どもも泥んこになってからは田植えに熱中。

秋の稲刈りも楽しみ。おいしいお米がまってるよ。

## 地域の人から学んだよ

5月28日に、南帷子小学校で消防団員が講師となって授業を行いました。「ずっと帷子、いつかは帷子、思いついたら帷子へ」を口ずさむ吉田校長。子どもたちが地域とのつながりを大切にする大人になってほしいと願い、「帷子を支える人々」をテーマに地域で活躍する人を講師に招いて授業を行っています。

子どもたちが将来、講師として学校へやってくるのが待ち遠しいですね。



消火器の扱い方を学ぶ児童たち



塚本明里さん（中央）と代表選手

## 勝利の女神が微笑んだ！

サッカーJリーグF C岐阜vs水戸ホーリーホック戦が6月2日に岐阜市の長川競技場で開催され、4対0でF C岐阜が快勝しました。この日は可児市のホームタウンデー。選手の迫力あるプレーをひと目見ようと多くの人が応援に駆けつけ、会場は熱気に包まれました。

試合直前のセレモニーには可児市ふるさと広報大使の塚本明里さんが登場。両チームの代表選手に可児市で育った花を手渡し、笑顔でエールを送りました。

## 信子さま花フェスタのバラを堪能

5月29日に、寛仁親王妃信子さまが花フェスタ記念公園に御来園されました。

信子さまが花フェスタを訪れたのは16年ぶり2回目。案内役を務めた花フェスタ記念公園の上田善弘理事と具体的なバラの品種の話をするなど、バラにとっても精通し、ご自身も自宅でバラを栽培するほど、バラがお好きのようです。

以前来園されたときに植えたというバラをご覧になり、丈夫に育ち花を咲かせていることに喜ばれていました。訪れたこの日は、自身の名が付いている「プリンセス ノブコ」はつぼみの状態でしたが、色とりどりにきれいに咲いた園内の様子を楽しんでおられました。



バラを楽しむ信子さま



「プリンセス ノブコ」をご観賞



癒しの空間が広がる遊歩道

## 木曽川と竹林の魅力を皆さんに

5月19日、木曽川左岸遊歩道友の会の総会が行われました。今渡から土田に広がる竹林の遊歩道を整備する同会は、活動を始めて10年が経過しました。

昨年度には活動の成果が認められ、県の清流の国ミナモ賞の受賞や、国の認定を受けたかわまちづくり事業にも大きく関わっています。

木曽川の雄大な景色を見ながら気持ちよく散歩できる遊歩道に、ぜひお出掛けください。

## 明智光秀供養祭

明智光秀公の供養祭が、6月9日に瀬田の天龍寺で行われました。この供養祭は明智城址保存会の皆さんが毎年開催している恒例行事です。地元住民ら約50人が参列し焼香をし、光秀の遺徳を偲びました。

2020年には光秀を主人公としたNHK大河ドラマ『麒麟がくる』の放送が決定。同会の林則夫会長は「今後は夏に生誕祭なども開催し、より一層光秀の魅力や歴史発信に力を入れたい」と語りました。



供養をする参列者

## 全国に誇る美濃桃山陶

5月25日、可児市重要無形文化財の技術保持者の認定式を行いました。認定されたのは、美濃桃山陶の「黄瀬戸」「瀬戸黒」「志野」「織部」の技術を保持する6人の陶芸家です。

保持者からは「伝統を守りながらも、時代にあった自分の方向性を見つけ、掘り下げていきたい」「若い人に興味を持ってもらって、焼きものの世界が広がってほしい」など、美濃桃山陶に対する思いがあふれていました。



上段左から守谷宏一、堀俊郎、瀧口喜兵衛  
下段左から原憲司、豊場惺也、加藤弥右衛門（敬称略）